

(様式3)

## 自己評価結果票(青空)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>			
<b>1.理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人理念である「人権の保障」「ノーマライゼーションの確立」「生きがいの創造」の具現化に向け取り組んでいる。その中でも「尊厳が保たれる自分らし生活」を独自の理念として取り組んでいる。</p>	<p>法人理念及び施設の独自の理念を施設内に掲示しているが、より深い理解につながるよう努めて行きたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎日実施してるミーティングにおいて、ケアのあり方について理念と照らし合わせながら、検討している。また、研修会においても、理念の浸透を図るべく、理念を取り上げた研修を実施している。</p>	<p>理念は常に振り返りながら学習していく必要がある。今後も日々のミーティングや研修の場において、理念の検証を行い各職員への浸透を図りたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>当法人が発行している広報誌「生きる」の中で、施設での暮らしの様子を紹介してもらいながら、そのひとらしく生活してもらおう事の取り組みを伝えている。</p>	<p>運営推進会議や地域のとの交流の場で理念の浸透を図って行きたい。</p>
<b>2.地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣地域の方々からの訪問や交流を積極的に受けいれている。また、近隣への買い物等の外出時には、積極的に挨拶をしたり会話をすることで隣近所との関係づくり努めている。</p>	<p>地区の老人会と交流会を持たせていただいております。それらの機会を通じて近隣との関係を作り、努めていきたい。気軽に立ち寄れる関係になれるよう今後努力していきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地区での催し物である、盆踊りや夏祭り等へ積極的に参加し、また、地区の老人会の方々や保育所からは定期的な訪問をいただいている。</p>	<p>老人会をはじめとする、地域の方々からの訪問交流をいただく中で、入居者とも顔見知りになりつつある。今後も交流を続け、地域の一員として生活していただけるよう支援して行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>地域への働きかけについては、その責任を自覚するところであるが、具体的な取り組みには至っていない。</p>		<p>地域へ向けた働きかけについて事業所内で検討し、何か行動に移せるよう取り組みたい。</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>自己評価への取り組みを機会に、職員全体が当事業所の取り組みや方針を改めて理解できるよう、職員で項目を分担して取り組んだ。その理解度によっては説明を加えることで取り組みや方針を共有できるよう取り組んだ。</p>		<p>自己評価を行うなかで、取り組みや方針の共有のみならず、新たな気づきを得ることもあった。ひとつの気づきが全体のものとなるよう取り組みたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>運営推進会議の開催数は多く持ててはいないが、家族の思いや関係者からの意見を聴く機会となっている。</p>		<p>定期的な運営推進会議の開催に向け体制を整えていきたい。</p>
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>町との行き来は少ない現状にあるが、運営推進会議を中心に積極的に町と連携を図って行きたい。</p>		<p>町の担当者との連携を密なものにするためにも、運営推進会議の充実を図りたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>権利擁護等に関する制度についての知識は充分とはいえないため、今後学ぶ機会を多く持ち、理解を深めて行きたい。</p>		<p>権利擁護に関する研修等への積極的な参加など、学習の機会を多く持っているよう努めて行きたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>高齢者虐待防止関連法についての知識は充分とはいえないため、学ぶ機会を多く持ちたい、理解を深めて行きたい。</p>		<p>「虐待」についても、法人理念である「人権の保障」と照らし合わせながら、あってはならないこととしての認識を深めるよう、全体での学習も検討して行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		暮らしの様子をより分かり易く伝えて行けるように努め、利用者と家族の間をより密に保ち、家族からの思いや意向もあがりやすいようにしていきたい。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		家族から出された、意見、要望にはミーティングで話し合いながら、出来るだけ早期に解決に向けていきたい。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年4月に大幅な職員の異動を行ったこともあり、今年4月の職員の異動は行なっていない。短期間で職員が入れ替わることでの入居者の混乱が起こらないよう配慮した。		全ての職員が、入居者一人ひとりに丁寧に関わって行くことを、ミーティングで都度確認し、入居者にとって親しい存在になれるよう、寄り添った関わりを行い、馴染みの関係となれるように努めていきたい。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度職員研修を実地し、内容については年間計画を立てて職員の能力を高めるようにしている。外部研修については各種研修の案内を回覧したり、職員が受けたほうが良いと思われる研修に関しては復命で参加を行っている。		向上心は各職員により差が出ることもあると思うが、自ら学ぶ姿勢の喚起を行っていきたい。
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2年前より郡内のグループホームの職員が集まり情報を交換したりケアの質を高めて行けるように意見交換を行っている。		今後もより密接な関係を持ち、お互いの良いところを取り入れて行きケアの質の向上に努めていきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会として、親睦旅行や忘年会等を年間行事として行っている。仕事上での相談事などを話しやすい環境づくりに努め、改善が必要と思われる課題についてはミーティング等で話し環境を整えたりしている。		職員の意見がより表面に出てきやすい環境作りを行っていきたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日頃の勤務状況から個々の努力や実績の把握に努めており、それぞれの職員に応じた役割と責任を適宜持つようにすることで、向上心を持って働けるようにしている。		人材育成の仕組みとして、人事考課の本格的導入に向け現在演習や研修を終えたところにある。人事考課の面接をとおして、勤務状況の把握と努力目標を確認し、求められる仕事を明確にすることで、職員のやる気につなげていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居申し込み書に本人の状態を記入するところもあり、申し込み書からも状況を把握が出来る。また入居前の事前面接においては本人と話しを行うことで、認知症の状況、現在の課題、生活歴を知ることが出来る。しかしよく聴く機会というところまでは難しく入居になってからよく聴く機会、その人を知る努力を行っている。</p>	<p>本人からの思いや求めていることを聴く機会については、入居前の面接時の1度だけではなく、いつでも知ることが出来る機会が持てるようにしていければと思う。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居申し込み書に家族の不安や本人が在宅での生活が難しくなった理由も記入されている。入居が決まれば家族も安心されることもあるが、入居後の暮らしについても落ち着いた生活が叶うのだろうかという不安も伺えるため、対応について説明すると共に家族に協力をお願いしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>まず本人の状況を申し込み書や他の情報から把握し、GHでの生活が叶う状況であれば、事前面接を行ない入居を勧めている。心身機能的に捉えて他のサービスの方がその人にとって適していると考えられる場合は、同法人内の特養の申し込みを勧めることもある。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に見学に来られる入居者もいるが、利用の為に前もっての相談ということは行っていない。しかし入居時には慣れて頂けるよう、その方の状況から他者の方への理解、雰囲気作り等行い職員の配慮のもとで馴染みやすい環境を作る努力をしている。</p>	<p>入居の申し込みをされている方には定期的にショート利用をして頂けたら、更に慣れてもらいやすいが今の状況では現実的に難しいと考える。</p>
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者が主体であるという法人の理念にもあるように職員はサポートする立場である事を自覚し、対応を行っている。一瞬、一瞬で変化する入居者の思いをいつでも聴ける体勢に置きながら、思いを共有することで信頼関係を築いている。昔の生活習慣、四季の話題、料理作り等利用者から学ぶこともある。</p>	<p>一瞬一瞬で変化する入居者の思いや、喜怒哀楽を更に感じる事が出来るよう、職員個々の成長も必要である。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族へは1ヶ月間の生活の様子を便りにして伝え状況を分かってもらえるようにしている。また「帰りたい」との思いから一時外泊をすることで安心される方には、家族に協力をしてもらえよう対応の方針も伝えている。		家族の思いを今以上に聞くことが出来るようにして行かねばならない。
29	利用者との家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居に至るまでのそれぞれの家族関係を理解した上で、どうあることが入居者、家族にとって良いのかをミーティングで話し合うこともある。ケアの方針を家族に伝えるなかで協力も得られるようになったこともある。		それぞれの家族のあり方を理解した上で、サービスを利用することで、入居者と家族との関係がより良い方向で深まることを目標に努力したい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症によって忘れていくこともあると思うが、馴染みの人、場所はたとえ思い出せないとしても感じておられることは確かであり、外出時には馴染みの場所に行ったり、買い物時には知人に会うことで、その人らしい表情がみられることもある。		「その人を知る」ということを大切にしているが、馴染みの場所、物、人等を本人や家族に聞き教えてもらうことで対応の幅を広げて行きたい。
31	利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	人それぞれ性格も違い入居者間で合う合わないということもある。認知症の状況に違いがある場合には誤解も生じることもあり間に入ることで関係作りを行っている。声かけにしても特定の利用者に偏ると他者は孤独を感じられることもあり声かけの技術に関しても向上していく必要がある。		
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療行為が必要になった方が契約を終了することもあり、次の住まいがなかなか決まらないこともある。その方が安心して生活して頂けるように、契約終了後も家族と連絡を図りながら相談している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活歴、現在の状況、本人の思い、家族の思い等の把握に努めている。関わる中で見られたこだわりや、その人の生き様については重要な視点として大切にしている。本人から聞くことが難しい場合は家族からの情報も大切に本人らしさが叶うよう対応している。</p>	<p>個別ケアの見直しを本年度の目標に掲げており、独自のシートを取り入れ生活歴、現在の状況、ニーズ等をより把握するための対応を考えている。また家族からも教えていただけるようにアンケートもとっている。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前のアセスメントで得られた情報に加え、入居後の関わりの中でも生活歴、馴染み等の把握に努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個々の入居者がその人らしく生活して頂けるように精神面、医療面、機能面等の視点から把握に努めており、状況の変化を見落とさないようにしている。常と違う状態がみられる時には原因を探るため、ミーティングで意見交換し、それぞれの視点から総合的な把握に努めている。</p>	
<b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>新規の場合は情報提供書や本人との事前面接、また契約時の家族の言葉等で等思いを知ることが出来る。見直しの計画については家族によって意見や思いを伺う機会に差があるのが現状である。</p>	<p>介護の計画の立案に向けては、家族からの情報が得られるようアンケートの実施をした。これを機会に家族とのコミュニケーションを更に深めると同時に、意見や思いを介護計画に反映させていきたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月を基本に見直しを行っているが、中には期間を過ぎてしまうこともある。変化が生じた場合もある程度状況が落ち着いてからの変更となっている。</p>	<p>変化が生じた場合にも家族、関係者と話し合うことが出来れば更に現状に即したものとなると思う。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は1ヶ月ごとに記入している。気づきに関してはアセスメントシートに「つぶやき」という覧を設けて利用者の何気ない言葉からもケアに活かせるようにしている。		ケース担当との話し合いから気づきを活かした計画の見直しも図れればと思う。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	2階3階との交流や併設しているデイサービスのレクリエーションを通しての交流などを行っている。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	「お茶の会」ではボランティアの協力を得て実施しており、落ち着いた雰囲気です時間を過ごしていただいている。近隣の学校、保育所との交流も持っており、消防訓練の際には職員の派遣を依頼し、実地している。地域で開催の文化祭にも参加し、地域との交流が図れている。		学校からのボランティアグループや地域の老人会からの交流もあり、今後もより地域と密接して交流を図り、入居者にとっても良い刺激を得てもらうよう努力していきたい。
41	他のサービスの活用支援  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族の意向や医師の判断により、入院後、当法人内の施設利用で他のサービスを利用する際には、ケアマネやスタッフとの連絡調整を行った。		医師の判断、家族の意向に沿い、安心して他のサービスが活用できるよう連携を図っていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議以外での地域包括支援センターとの連携は図れていない。		今後、地域包括支援センターとの連携を図っていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		<p>家族、医療機関との連携を密にして、入居者が安心して生活できるようにしていきたい。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>近郊に専門医が不在である為、認知症に関するアドバイスは協力医療機関の医師やかかりつけの医師に伺っている。</p>	<p>地域の医療体制上、認知症の専門医との直接的な連携は図りにくい為、必要に応じて主治医の診察の結果後、専門医につなげていきたい。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>処置や対応面で専門的な視点での判断が必要な場合は、看護員と連携を図り、受診が必要な場合は医療機関への受診に繋げている。</p>	<p>安心した生活を送れるよう、医療機関と連携を図り、日常の健康管理に努めたい。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>都度の状態把握に努め、退院後も再度入院に至る事のないよう、排泄、食事、環境面で情報を交換し、病院と連絡を図りながら、退院後の対応についても検討している。</p>	<p>随時、病院との連携を図り、退院後もスムーズに対応し入居者が安心して生活できるよう努めていきたい。また、医師より食事制限の指示を受け退院した入居者もあり、全体の献立についても栄養士からアドバイスをもらうなどして、バランスのとれた食生活となるようにしていきたい。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>看護員が常勤ではない等、終末期ケアに対応する体制は整っていないが、重度化や疾患により急変が予想される場合には、家族や入居者とも話をしながら方針を共有できるようにしている。</p>	<p>重度化しても可能な限り馴染みの生活を継続できるように思いを共有し、職員間で対応できるや技術を知識の向上を図っていきたい。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>可能な限り生活の継続が叶うケアの実践に向け、職員間で方針を共有しながら、「出来ること」への追求に努めている。また、医療機関とも連携をとり、職員の専門的な知識、技術の向上に努めている。</p>	<p>可能な限り馴染みの場で生活が継続できるよう、課題の改善や工夫を積み重ねていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>家族や医療機関と情報交換しながら入退居時の不安や混乱を軽減するよう努めていきたい。</p>
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>自ら重ね着をされる方があり、季節にあった服装を心掛けていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援	月に2回、入居者の希望を伺い献立に取り入れている。食事の買い物、準備、後片付けは入居者と共に行いながら、それぞれの役割りとして勤めている。		季節の食材を取り入れた食事、入居者の好む物、嫌いな物を知り、満足が得られる食事の提供をしていきたい。
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物の際に食べたいお菓子・飲みたい物を入居者と共に選び、10時・15時のお茶の時間に提供している。入居者個々でも食べたい物を自ら購入する方もある。居室内にある食べものの状態に関しては古くならないよう、職員で気にかけて確認を行っている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の自立へ向け、パットを使用される場合でも、より薄い物の使用が叶うよう、また一回でも失敗なく排泄が叶うよう、個々の排泄状況の把握に努め、関わり方を職員間で共有し連携を図り対応している。		排泄時の声かけには自尊心に配慮し、他者には聞こえないよう意識しながら関わっていきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日おきで行っているが、毎日入浴を希望される方にも対応している。また、入居者によっては入りたいと思った時に、自ら浴室へこられる方もあり、そんな時にも対応出来るよう、柔軟な対応に努めている。		入浴時間は15時半から行っているが、入りたい時間、夜間入浴等、希望に添った入浴も取り組んでいきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の安眠に繋がられるように日中は作業的な事を勧めたり、外出をしたりと活動的に過ごして貰っている。また、都度の体調に応じて休息をとって貰えるように対応している。		体を動かす事が少なく、体操など体を動かす事を取り入れていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人を知る事で、その人に合った役割りや楽しみ事を勧め支援しているが、役割りを継続することで精神的に負担と感ずる事のないように思いを伺い、その時々合った支援をしていきたい。		一人ひとりの生活歴の把握については、関わる上で大切な視点と考える。生活歴等についてのアンケートを実施し、その情報をもと家族等へ聞き取りを行い、その上でその方らしい支援をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理は事務所でやっている方が多く、買い物の希望が聞かれた場合にこちらで対応しているが、日常的な買い物などは個人的に所持したお金で買い物をされる方もいる。</p>	<p>入居者の希望を聞き、その方の力に応じて買い物の同行時などにお金を所持したり、使う事での支援もして行きたい。</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>日常的な外出の機会としては、施設周辺の散歩、買い物、美容室、地域の催し物への参加などである。その日の体調などを見ながら、無理のないように外出の支援を行っている。</p>	<p>その日の天候や体調などに配慮しながら、長時間の外出が困難な方には外気浴などの時間を設け、時季の風景を楽しんでもらいたい。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>季節の花見、芝居の見物や一泊旅行等の計画を立て希望を聞いた上で支援をしている。又、他の施設に入居している家族に会いに行く支援も続けている。</p>	<p>芝居の見物や一泊旅行などは長時間に渡ってしまう為、特定の方の参加となってしまう。その為、家族と共に外出の機会を設け、良い時間を過ごしてもらいたい。</p>
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族からの電話が定期的にある方には職員が対応している。また、家族への電話の希望が聞かれた場合は思いを伺い対応している。</p>	<p>電話で会話をするのも良いが、家族に宛てた絵手紙を通しての支援なども考えてみたい。</p>
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>訪問者はいつでも訪問して頂ける状況にあり、居室でゆっくりと過ごして頂けるよう配慮している。入居者にとっては心待ちにしている方もおり、気軽に立ち寄って頂けるように挨拶は勿論、笑顔で対応したい。</p>	
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>介護には拘束は存在しないという事を常に職員研修等で取り上げており、またケアについても拘束のない介護を実践している。全ての職員が正しく理解できるよう学習の機会を持ち続けたい。</p>	<p>繰り返しの学習の中で理解を深め人権感覚を磨いていく必要もある為、学びの機会を持って行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はどこも鍵の施錠はしていない。鍵を掛ける事で閉じこもっているかのようになり、これも拘束の一部でもあると捉える。それぞれの思いから外に出たいという方には職員が行動を共にして対応している。鍵を掛け行動の範囲を制限してしまうことで不穏、興奮等に繋がる事を職員間で理解している。		職員は入居者の動きを常に把握しておかなければならない役割である。目配り、入居の位置関係を把握すると共に、目の届きにくい場合においても、今何処に誰がいるのかを頭に入れておき心のアンテナを張るようにに努めて行きたい。
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はミーティング中や業務の合間であっても職員間で状態の把握は行っている。時には別ユニットの応援も得ながら対応している。夜間は排泄介助に関わりながら状態把握したり、居室に伺いながら様子を見ている。施錠している方には確認は行っていない状況である。		日中体調不良の方には居室にて休む配慮を行なっているが、目が行き届き難くならないよう、職員間で連携を図り転倒等の危険がないよう、アンテナを張り努めて行きたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁等、危険である物はキッチンの目に届かない位置に保管している。火の元については、現時点では使用される入居者はいない。		包丁は食事作りで入居者も使用されるので、危険のないよう職員が見守りながら対応している。ただ危険だけを理由に、全てを排除してしまうと生活の中の潤いを失ってしまいかねないので保管、管理のあり方にも留意して行きたい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時についてはマニュアルを整備している。薬は一人ひとり食後(食前)ごとに分けて飲みやすいようにケースに入れており誤薬を防いでいる。		事故防止の為に繰り返し確認していく事で、素早く対応出来るようにしておきたい。また誤薬も絶対おきてはならない事であり職員個々が自覚し、側を離れる際にはケースに入れておくなりして対応して行きたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時についてのマニュアルは整備しているが、定期的に訓練は行っていない。事故の発生時には至った経緯を再確認し、原因を分析する事で再発防止に向けて取り組んでいる。		緊急時でも落ち着いて対応出来るよう、繰り返し確認し定期的な訓練も実施していき、また吸引器や酸素はいつでも使用出来るよう使用方法を確認して行きたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2度、消防署から職員を派遣していただき、防災訓練を実施している。昼夜を想定した訓練であり、訓練時は入居者にも参加して貰っている。		火災を想定した訓練であり、その他(地震や停電等)の災害時の訓練は行っていない為検討して行きたい。地元の協力も得る為にも地域交流も図って行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	体調変化があった際には、直ぐに家族に連絡し経緯について説明を行っている。毎月月初めに1ヶ月の状況を手紙に書き伝えている。心身機能の変化についても家族と共有しながら、今後の対応について相談している。	暮らしの場として、馴染みの関係・環境での生活が継続できるよう本人、家族の意向も伺いながら話し合いの場を持って行きたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常の健康状態を把握し、変化に気づいた時はミーティングで情報としてあげ対応を話し合っている。看護員に対応についてアドバイスをもらうこともある。	それぞれの既往歴と対応の留意点を認識し、変化の際に速やかな対応が叶うようにしていきたい。
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があればミーティングで報告し、服用後の変化として考えらる状態を情報として共有している。	薬の変更後は、服用後の状態を把握するため、薬の内容によってはバイタル測定を行い、受診の際に医師につなげている。
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員の引継ぎの際に、排便状況を伝え対応している。排泄時には体調や表情の変化に留意し関わっている。	時に排便困難な状態となる入居者もあり、スムーズな排便が叶うよう水分や運動を勧めていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後の口腔ケアは、歯科衛生士のアドバイスをもらい入居者の口腔状態に合わせ歯磨きを勧めている。夕食後には翌朝まで洗浄液につけている。	毎食後の口腔ケアが叶うようにしたい。(うがいでもよいとアドバイスがある)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日誌やミーティング等で食事量や内容を把握している。状況によっては食事時間にこだわらず、食事の時間以外でも勧め、食事量の確保に努めている。	摂取量によって体重等に変化がないか測定を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	ミーティングや職員研修で予防について話し合った。入居者も感染症に対する予防を意識してもらうように話しを行った。		食堂内の手洗い場が使用しやすいよう、ソファの位置を変え、各トイレや手洗い場にペーパータオルを設置した。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎週日曜日に食器をハイターで消毒している。食事メニューに添って食材を購入し在庫を持たないようにしている。		清潔面を意識し、ふきん専用の洗濯機や物干しの道具を使用している。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	エレベーターの前には季節感のある花や入居者と共に生けた作品を飾っている。出入口には移動時の安全・安心の為に、椅子を設置し転倒の無いよう留意している。		玄関は施設の顔でもある為、清潔感には十分配慮し掃除は丁寧にを行い、虫などの汚れなどにも定期的に掃除を行っていききたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の際には、食堂入り口にのれんを下ろす対応をしている。共有の廊下・玄関などには定期的に生け花の交換を行い季節感を感じて貰えるような配慮を心がけている。		浴室にも既に仕切りののれんをしているが、1枚では開けた際には見えてしまう事がある。のれんを2重にする等して中からも外からも入居者への配慮を行えるよう改善していききたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室前・食堂とソファを設置し思い思いの場所で過ごせるよう配慮している。また和室には畳もあり、時には和室で昼寝もできるような対応もしている。		ソファの座り心地また座布団を敷くなど入居者の側に立ち改めて快適に過ごせるような配慮を考えたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室によっては思い出の品・使い慣れた用品を持ち込んでおられる。テレビ・仏壇・冷蔵庫など持ち込まれる入居者へは使いやすい位置に設置している。		入居者によっては持ち込みの少ない方もおられる。それにより居室内での生活が退屈と感じておられる方もあるのではないかと思います。馴染みの品などを持ち込んでいただくなど、家族と相談し改善が出来ればと思う。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭いが気になる場合には換気を行い対応する。冬場は乾燥をする為、各居室と食堂に加湿器を設置している。		使用後の排泄用品など、臭いの気になる物は早めに処分を行う。夏場は特に残飯・生ゴミのにおいも気になるので改善していきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・ローカには手摺りを設置し、行為の行いやすいよう配慮している。浴室の段差が大きく踏み台を設置している。		足拭きマットを置くことで、足が引っかかり歩行のしにくさが見られる方もある中、改善をして行きたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	場所的失見当等による混乱を防ぐ為、居室やトイレなどは分かり易く表示している。混乱のある方へは分かりやすい言葉で伝え対応している。		入居者の心身状態に応じた対応のあり方について都度検討していきたい。また、入居者の心の変化を常に把握できるよう、職員はアンテナを張って、一瞬の心の変化にも柔軟に対応していきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天候の良い日などは施設周辺の散歩を行ったり外気浴を行っている。施設周辺の畑の草取りなども行っており、施設裏には遊歩道が出来たので活用したい。		施設周辺の外での食事なども機会を増やしていきたい。施設裏に遊歩道が出来たので、何か活用ができるよう検討していきたい。

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目 (青空)		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当施設は平成16年4月1日に開設し今に至る。この間、当法人の基本理念である「人権の保障」「ノーマライゼーションの確立」「生きがいの創造」をケアの目標、判断基準とし取り組んできた。

入居者一人ひとりが生活の主体者であることを意識下に、認知症を有してもその人らしい生活が適うよう、「個人の尊厳が保たれた、自分らしい暮らし」の保障を基本に、ケアの確立に努めるところにある。開設より5年を経過し、いま一度、個別ケアの充実・追究を視点に持ち、生活歴や生きざまに触れることを通して、その基本に立ち返りたい。また、住み慣れた地域社会で暮らし続けることは誰も願うところであり、認知症を有していても変わるものではない。それが現実のものとなるには、地域ぐるみで支え合うことが不可欠である。そのための情報発信や、共に考え合う機会を設けることも、グループホームの専門性として自覚するところがあり、地域に向けた取り組みを積極的に展開し、理解・啓蒙に向けて努めたい。

認知症ケアにおける大切な視点は、その人の一瞬一瞬の思いや感情、希望など、心の変化に瞬時かつ柔軟に対応することであり、その実践に努めるところにある。加えて、予定が立つ暮らし、明日を迎えることを良しとできる生活を支援するために、昨年度より、その人が望む日常を意識し取り組むところにある。今年度においても、明日への意欲、生きることへの意欲につながる心の躍りを得られるよう、その保障に値するケアの充実、確立に向けて邁進したい。